PAC DE NEWS

1998 MARCH 54

スーパーハイクオリティ作監修正集!

運命に翻弄される3人の男女



舘　正成　恭資や由花よりも、深く何かを見てしまったのか?目覚めた己の立場を知っているのだろうか?ただ分かっていることは、舘は、昔の舘ではなくなってしまったのだ。遠く400年の遠方からの、魂人の戦いが現代に甦る。

桐生由花　舘の婚約者である由花は、剣道選手権の日に恭資と初めて出会った。由花もそこで何かを見たのだ。おそらく恭資と同じものを。恭資に対して感じる既視感。やがて、由花も過酷な運命の中に入り込んでゆく。

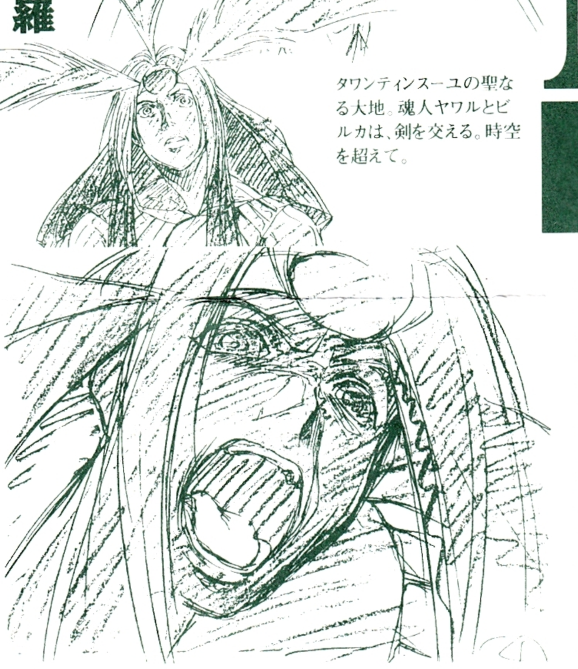
三浦恭資　剣道部に所属する高校2年生。部の顧問の先生である舘が出場した、全日本剣道選手権東京ブロック決勝大会。舘の試合中に恭資はコンドルを見た!そして、舘の姿がインカの戦士に一瞬見えたのだ。運命は動き出した。

時空転抄 NaZca ナスカ

転生戦士の修羅



タワンティンスーユの聖なる大地。魂人ヤワルとビルカは、剣を交える。時空を超えて。



サブキャラにも注目!



監督 ときたひろこさん インタビュー

この作品で、モチーフ的な要素になっているインカのような古代文明への興味は?

ときた「それはわりと前から、ありましたね。秘境関係は個人的にも好きですから。この作品では、異世界や、異文化の神秘的な感じとか、映像的なインパクトを与えるように、コスチュームデザインとかも、かなり作り込んでいますけれど、こうしたものは、ほとんどこちらが想像で作り上げていきました。というのは、インカ文明が実際、どういう文明だったのかをわかるような資料って、あまり現存してないんですよ。文献も残ってないし。だから、かなりの部分を想像で作るしかないんですよ。ま、実際のインカ文明とは、かなり違っているでしょうけど、異文化的なモノを派手派手しいものに想像していきながら、作っていくのは面白いですね。」

作品的にキーとなるのは、由花と、恭資と、舘?

ときた「ほとんどこの3人の関係に絞られてきます。だから3角関係的なものになるんだけど、普通3角関係というのは、二人の男ないし女を二人の異性が取り合うだけなんですが、この3角関係においては、もちろん由花をめぐる恭資と舘という部分もありますが、舘をめぐる由花と恭資という面もあるという、錯綜した3角関係になっていますから、この辺りは注意して見てもらいたいですね。」

監督が気になるキャラは?

ときた「由花ですね。フィルムを見てから、さらに由花が好きになってきましたね(笑)。男性キャラでは、そうだな、ま、キョウちゃん(恭資)。かわいいから(笑)。かわいい方が成長が楽しみというか(笑)」

今後の展開について?

ときた「全12本という、ミニシリーズで、展開はめまぐるしく動いていきます。いろんな事件が次から次へと起こっていきます。」

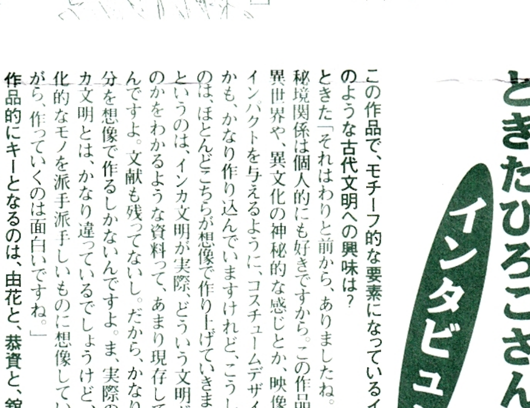
メインの3人以外でキーになるキャラは?

ときた「戦士として覚醒するのは、壇(カマロス)、清野(アマロ)、大門(オレホン)、潮上(シグミ)、柳原(エレラ)。後半で、もう一人謎の人物も出てきます。あ、そうだ、私、清野も好きですね。なんか中性的な少年に、最近ちょっと惹かれるんですよ(笑)。」

最後に一言メッセージを

ときた「やっぱり、主人公である恭資の、成長の過程みたいなものを見守って欲しいなと思っています。」

出演声優さんたちのコメントゲット!



取材に伺ったときはメインキャスト勢ぞろいといった感じで、ゴージャスでしたね

大門宏役　上田祐司さん
「大竹ひろしさんと一字違いなんですが(爆笑)。割と知性派なんですが、寝起きみたいな顔してます(笑)。インカの古の戦士が、日本人に生まれ変わってどうなるのか大変興味深いです。」

舘　正成役　子安武人さん
「ぶっちゃけた話、大好きなんですよこういう作品(笑)。誰が何と言おうと個人的に大好きなんで、楽しんでやらせて頂いてます。想像をかきたてられるキャラなのでノッてやってます。」

三浦恭資役　鈴村健一さん
「主人公が熱血タイプである王道のキャラを演じたいと、ずっと思っていたところに、今回、初の主役で、熱血タイプの恭資をやらせていただいていますから、大変嬉しく思ってます。」

桐竹由花役　林原めぐみさん
「由花は、悲劇のヒロインにも、やな女にも見えるキャラですね。恭資と舘の間に挟まれて、葛藤している辛い立場にいますが、どうにかして自分の道を切り開いていって欲しいですね。」

潮上真理役　陶山章央さん
「役柄的には危ない人で、今までやったことのないタイプのキャラで、むずかしいけれど、やりがいがあります。作品としては、好きなタイプなので、最後まで生き残りたいです(笑)」

柳原竜子役　水野愛日さん
「前世では女戦士のエレナになります。戦士としての強さを感じさせる部分と、普通の高校生の竜子の両面を、演じわけていくのは大変ですが、精一杯やりたいと思います。」

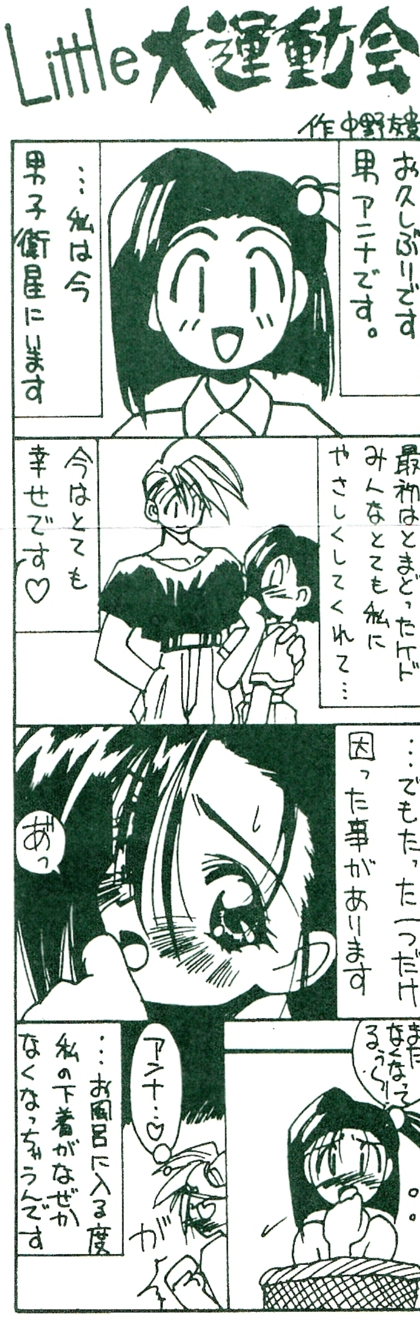
三浦深雪役　吉田小百合さん
「私も戦士として転生したいのですが、深雪は目覚めることができないので、ちょっと残念かなと思うんですけど、こんな豪華キャストの先輩方と一緒の作品に出られてとても光栄です。」

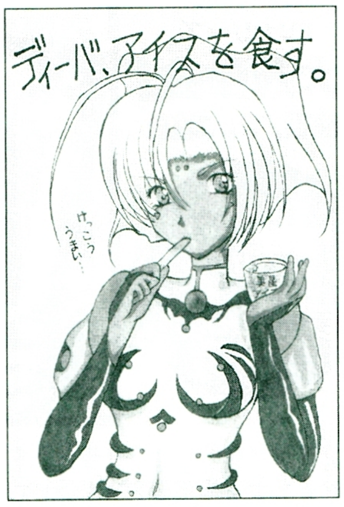
清野慶太役　坂口大助さん
「女の子より背が低い男の子なんです。転生するキャラの中では一番年齢が下の役で、中学生の頃の男子の持つ線の細さと芯の強さが出せればいいかなと、思ってやっております。」

壇　琢磨役　室園丈裕さん
「高校生の役だったので期待したのですが、案の定、オヤジ系でした(笑)。で、転生もしたのですが、現在、壇君は、一人山にこもって過ごす時間を楽しんでるということのころです(笑)。」

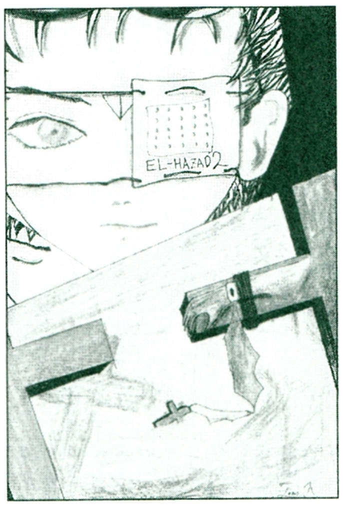
浅川麗奈役　西村ちなみさん
「幼なじみの、大好きな恭資君を中心に麗奈は回ってるんだなと思うので、最後まできっと報われないと思いますけど、大好きな恭資君のことだけを思う麗奈を、よろしくお願いします。」







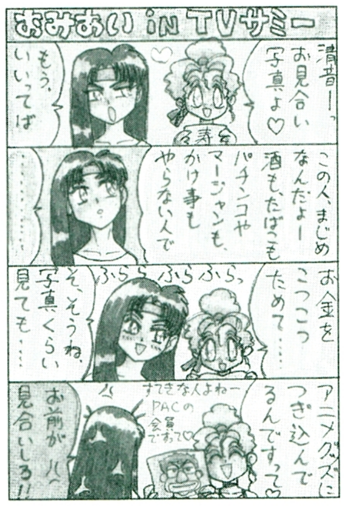
▲No.30497 P.N. ENDYさん（神奈川県）
ENDYさんは、2年ぶりの投稿とのこと。
ありがとう。普通っぽいディーバ、可愛いね。



▲No.40650 長倉智和さん（福島県）
カーリアのイメージイラスト、かっちょいいね。



▲No.32406 P.N. 冬枯老人さん（茨城県）
TV版「大運動会」も3月で放送終了。
ミラクルとエリックの関係に注目!するのは勝手だけど、別に…。

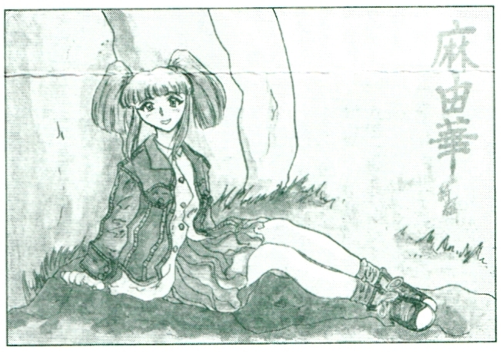


▲No.31490 浜田貴伸さん（福岡県）
清音さん、そんなに冷たくしなくても…。
PAC会員に悪い人はいないゾ!!

イラストリート



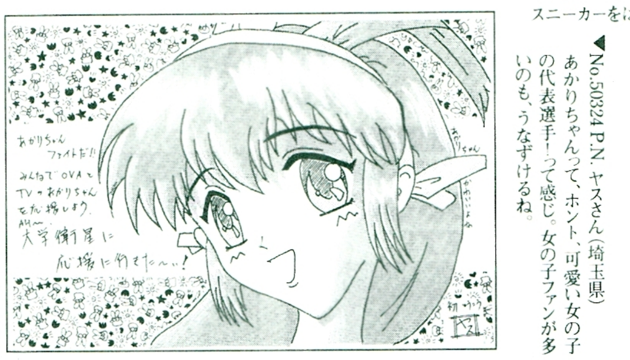
▲No.30103 P.N. プリティ家族さん（奈良県）
ハートに囲まれた砂沙美ちゃん、ポヨポヨしててGoo!よ。



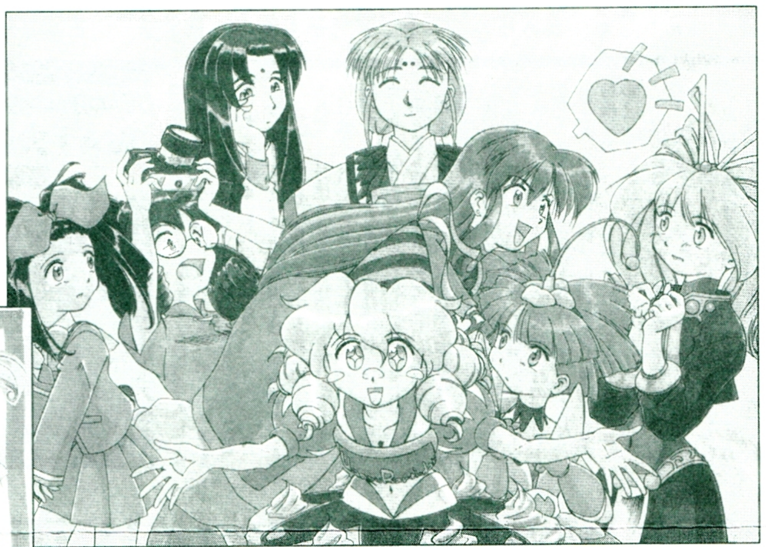
▲No.12448 P.N. 綺羅さん（岡山県）
スニーカーをはいた足のそろえ具合が、なんともキュートですぅ。



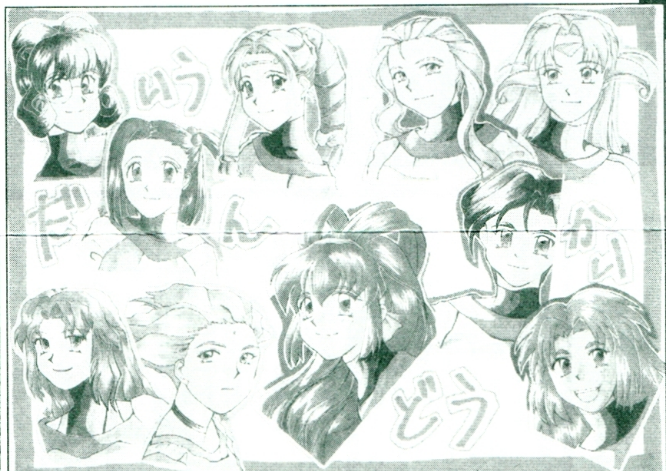
▲P.N.Kさん（東京都）
リアルチックなギルダさん、素敵♥のぞいてるファトラさん、怖い…。



▲No.50324 P.N. ヤスさん（埼玉県）
あかりちゃんって、ホント、可愛い女の子の代表選手!って感じ。女の子ファンが多いのも、うなずけるね。



▲No.30649 P.N. 姫萩麗流さん（神奈川県）
姫萩さんも久々の投稿。今月は、復活組が多くてうれしー。
ぜひ常連になってください。しかし、相変わらずうまい!!



◀No.10852 P.N. 桜あけみさん（群馬県）
すっごいウマイ〜。すっごいカワイ〜。
個人的には、笑顔のミランダさんが新鮮でスキ。

お便り募集

どんどんお便りくださいな。

■ILLUSTREET（イラストリート）

パイオニアLDCのアニメ作品のキャラクター、声優さんの似顔絵、4コママンガなど、イラストなら何でも大歓迎!

■Salon DE PAC

その名の通り、PAC会員のサロンを目指す新コーナー。パイオニアLDCのアニメ作品への感想はもちろん、日常にあった面白い出来事や、他の会員さんへの応援メッセージなどなど、何でもOKです。楽しいお手紙、待ってます。

■PAC伝言板

会員同士の交流コーナー。住所を公表したくない人は、PAC事務局留でもお受けします。

■ニセ陣内の紙面DEラジオ

ニセ陣内様に、PACについての疑問、人生の悩みなどを打ち明けよう。ニセ陣内様ならではの個性的な解答ですっきりできるぞ。新コーナー企画も募集中。

お便りが紙面に採用された方には、編集部から素敵なプレゼントをお届けします。
（PAC伝言板はプレゼントの対象外とさせていただきます）

〈お便りのあて先〉
〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-21-101
（株）ミーツ内 PAC事務局
「○○○○（各コーナー名）」係

※マナーある会員交流をしてください。会員同士で起こったトラブルについて、PACでは一切責任を負いません。
※応募作品の返却は、一切行っていません。必要な方は、あらかじめコピーをとっておいてください。

入会特典CD Wチャンスプレゼント〈第2回〉

第5期入会特典CDをゲットした人だけが参加できる、Wチャンスプレゼント。第2回目は、柊美冬さんのコメントからのクイズです。

〈クイズ〉
柊美冬さんは、声優になってはじめてのイベントがエルハザードのイベントでした。『ゴールドフィンガー』を歌ったのですが、すっかり○○○○になってしまったとのこと。さて、○○○○に当てはまる4文字は何でしょう。ハガキに住所、氏名、会員番号とクイズの答えを書いて、PAC事務局「Wチャンスプレゼント」係まで送ってね。

【締め切り】4月30日（木）消印有効

クイズ正解者の中から、抽選で1名様にセル画と柊美冬さんのサイン色紙をプレゼントします。

PAC集会

4月4日(土)決行!

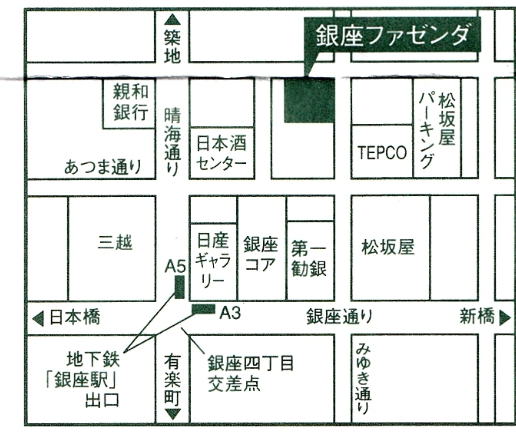
お席に若干の余裕あり!当日入場もできます。

スペシャルゲスト:夏樹リオ

司会進行:古谷ゆり

(KBS京都ムーンライトカフェにてコーナー担当中)

日時:4月4日(土)　17時半開場　18時開演(20時終演予定)
場所:東京・銀座ファゼンダ
参加料:1,000円
開催内容(予定):◎バトルアスリーテス大運動会　MISSION5　上映会
◎PAC会員カラオケ大会
◎会員活動弁論大会
◎スペシャル商品をGETしよう!ゲーム大会



【参加方法】

1.既に往復ハガキでご予約済の方

PACからの返信ハガキに従って参加ください。
応募いただいた全員の方に返信していますので、まだ返信ハガキが来ていない方は、お手数ですがPAC事務局までご連絡ください。

2.まだ予約していない方

当日入場OKです。会員証と参加料1,000円を持って、当日、16時以降に会場までお越しください。
但し、既にご予約済の方の後から入場いただくことになる他、満員の場合は入場をお断りすることもありますのでご了承ください。

会員オンリーのイベントなので、必ず会員証を持って来てネ!

PAC FORUM

寒い冬もようやく終わりに近づき、夕暮れ時になると「日が長くなったなあ」と嬉しく思う、今日この頃ですが、皆サマいかがお過ごしでしょうか。
今回は、うれし恥ずかし久々のPACイベント情報からスタートです!!

PAC伝言板

●譲ってください。

■第2期で通信販売された「鶯羽」と「訪希深」のテレカ(未使用・美品)を譲ってください。どうかお願いします(切実です)。
〒182-0035
東京都調布市上石原1-19-1-211号
坂口和将　No.13082



▶〒287-0031
千葉県佐原市新部4403
安井巧美　No.50171

●譲ります。

■TV版の「天地無用!」とTV版「エルハザード」のLD(BOX付き)、「新天地」のLDや「天地無用!」のCDなど、色々譲ります。詳しく知りたい方は、80円切手を同封の上、封書にてご連絡ください。
〒649-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町湯崎2327
三栖博　No.40274

■天地無用!等のグッズをお譲りしたいと思います。ご希望の方は、80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、リストをお送りしますので、ご連絡ください。また、4期よりサークル「PARIYON」を開いております。入りた〜いという方も、80円切手を同封の上、ご連絡ください。
〒253-0105
神奈川県高座郡寒川町岡田8-9-23
高橋秀樹　No.11085

■ブロッコリー版の「天地」と「サミー」のトレーディングカードのダブリ分を1枚50円でお譲りします。希望するカードの番号を記入の上、往復ハガキで連絡ください。それとAIC版の「天地」のカードをトレードしていただける方も、合わせてお願いします。
〒001-0907
北海道札幌市北区新琴似7-5-4-17
コーポ工藤10号
西山雄　No.40783

■「天地無用!」OVA版ビデオとLD、SLD、テレカ、ポスター、その他のグッズ、秘宝館をお譲りします。リストを送りますので、宛名カードを同封して連絡してください。
〒400-0115
山梨県中巨摩郡竜王町篠原934
深沢伸公　No.11342



▶〒183-0016
府中市八幡町2-18-18
渡辺佳子

ニセ陣内の紙面DEラジオ

■このコーナーを見て思ったこと。ニセ陣内様に人生の悩みを打ち明けて無事、解決した人は本当にいるんでしょうか?
No.40164　渡辺貴博さん(新潟県)

陣…たわけたことをっ。私の存在そのものが救済なのだ。

■先月号のア○メージ○の付録に「笑う陣内服着てる?」ということわざが載っていました。意味は、陣内は笑うイメージが強いため、裸で笑っていても、裸でいることに誰も気づかないことだそうです。ニセ陣内様、同じ陣内としてこのことわざをどう思いますか。
No.40650　長倉智和(福島県)

陣…ことわざなど、どうでもいいのだ。それよりも、さすが我らが陣内さま。全国誌に取り上げられているとは…。征服への道は、近いぞ!!

■どうも、すたていっくでございます。この度は、わたくしめの不手際によって、大変失礼なことをいたしました。あれからすぐに、あなた様の名前を使った言葉を考えた結果、いくつかできあがりました。急いで考えましたので、今までのとは少し違いがあるのですが…こちらですと、別の使い道が、まあとりあえずは見てください。
「アレ」(陣内克彦)
意味…特にない。そのままである。
用例…「えーっと、んーその、アレよ、アレ。この辺まできとるのに、分かるでしょ? アレだよ、アレ」「アレって、陣内克彦のこと?」というように、友人知人が言葉に詰まって「アレ」を連発している時、毎回続けて陣内様の存在を印象づける。(マインドコントロール)
No.40848 P.N. すたていっく(広島県)

陣…ウム。素晴らしい!早速、今日から始めるのだ!いいか、この言葉の常用は、今日からPAC規約で義務づけるぞ。

編…絶対、ないです。

■ニセ陣内様、新コーナーを考えました。その名もズバリ「混乱・ベストポジション!?」というのです。名前を見れば分かると思いますが、パイオニアアニメキャラから、ベストカップルを探すというものです。男同士、女同士もあり。
〈例〉エルハの菜々美と天地の砂沙美で、お料理バンザイ!カップル
No.30936 P.N. 天地な若者(福岡県)

陣…よし!この新企画で、巻頭企画に返り咲きだ!!今から、このコーナーに毎日5通ハガキを出すことを、PAC会員に義務づけるゾ!!

編…だから、ないってば。絶対、絶対、ぜ〜ったい!でも、ハガキの募集はしましょう。パイオニアLDCのアニメキャラの中でベストカップルを考え、その理由も書いて送ってください。HITな案には、素敵なプレゼントをご用意します。

●仲間求ム。





▲〒711-0936　岡山県倉敷市児島柳田町2413-2
白川直人　No.30544

◀〒133-0041　東京都江戸川区上一色2-11-9
松倉方「祭」係まで



▶〒733-0815
広島県広島市西区己斐上2丁目30-1
藤田純一

●文通しましょう。

■「天地無用!」「エルハザード」「大運動会」がメッチャ好きな人で、声優さんも好きっていう人、夢を持ってる人、気軽に話せる人、お手紙待ってまーす。よろしく!!
〒841-0072 佐賀県鳥栖市村田町669-7
コーポかおりB-202
開田伸雄　No.20708

Salon DE PAC



▲No.12304 P.N. 嵐　透流は高校生　さん(神奈川県)
こちらは、めでたい合格ハガキ。おめでとう。
楽しい高校生活、送ってくださいね。



▲No.16038　田村洋介さん(岩手県)
以前、PACでも紹介した声優のたまご、大澤祐子ちゃんへの応援のおハガキ。会員の中にも、4月から声優を目指してスタートを切った人がいるんじゃないかな?皆、ガンバレ!!



▶大澤祐子さん(埼玉県)
なんて商人な家族なんだ。菜々美ちゃんも顔負けかも…。

NEWS SCRAMBLE

TVシリーズ「大運動会」最終回アフレコ直後

監督 秋山勝仁さん シリーズ構成&脚本 倉田英之さん インタビュー

いやぁ、盛り上がるってコトはこういうコトなんだよねぇ。と、しみじみ感じます。この熱気、パッション！　女の子たちだけのドラマでここまで熱くなれるとは！　アニメ誌はいうに及ばず、同人誌界でも「大運動会」の人気はうなぎ昇り。まさに98年春のアニメ界を征した作品であるといっても過言ではないでしょう。PACとしていつも、番組の最終回の収録に取材にいくのですが、取材陣の数もちょっとビックリするモノがありました。番組終了後、あちこちからムックの発売も予定されており、4月以降はラジオドラマの展開の可能性もあるとか。オンエア地域ではなかったキミたちは、倉田さんのナイスな文章も載っているライナーノートが同梱されているLD&VCをゲットしていこう。これほどまでに盛り上がった作品の要といえば、監督の秋山さんと、脚本の倉田さん。アフレコスタジオにいたお二人に早速直撃インタビューを敢行！　しかとご覧あれ！

取りあえずTVの方、26本終えた感想をお願いします。

秋山「まだダビングが終わってないので、正確に言えばゴールしてないんです（苦笑）。かなり息切れ状態なんだけど（笑）。最後まで完走したなという感じでしょうか。」

倉田「一区切りはついたなあ、と。終わったなあと。TV版もOVAもそうなんですけど。もう書くことはないのかなあと。なんか余熱に浸っております。」

ほんとにすごい盛り上がりを見せた作品なのですが、監督としてはどの辺がこれだけの人気を得た理由だと思いますか？

秋山「やっぱり、時代とか世代に関係なく、何かに対して向かっていくとか、挫折しながら進んでいくとか、その辺が非常に身近に感じられるテーマ性を持っていたんじゃないかなという気がするんですよ。そういう部分は、作り手それぞれの思いが伝わりやすいテーマでもある気がするんですよね。だから、自分の与えられた仕事の中で、一生懸命スタッフがやってくれた。それが大きく飛躍したんじゃないかなと思います。倉田くんと黒田くんの二人の中である程度決め込んでくれた中身を、より膨らませてくれたスタッフたち。この組み合わせが、ものすごく自分にとっては幸せだったなって、感じています。」

倉田「もう、監督のおっしゃる通りなんですけど。ただ色んな意味で恵まれた作品だなと思います。もちろんスタッフにも恵まれましたし、タイミング的にも、良かったなと。なんか、やっぱ浮いてますから（笑）、他の作品に比べて。明るいんだか暗いんだか分からないし（笑）。今時もう21世紀も来ようというのに、あんなに涙流して殴り合ってる作品って他にないですから（笑）。」

秋山「でも、そういうことってしたいはずなんですよね。今の子って。自分もしたいんだけど、できる環境が用意されてなかったりとか、どっかセーブしなきゃいけないっていう時代背景があるじゃないですか。その時にこういう「大運動会」っていうテーマ性のある作品を見たときに、なんかそこに自分達も共感できる部分があったんじゃないかなって気がするんですよね。それは別に今の時代に限らず、自分達が10代の頃にもあったものだし、決して新しくも何ともないものですけどね。」

倉田「割と普遍的なものを形を変えて出してみた、みたいな感じですよね。」

秋山「ただちょっと忘れてたものを、あるいは自分達がまだ見てないものを、先人の人達が見たけど、自分達はあんまり見てないものは、なんかこう、リアルタイムで、ああ見たっていう新鮮さや、逆に、そういうものは昔あったな、という懐かしさがまじり合った部分が、非常にファンの人達に、受け入れられたのかなって感じはするんですけど。」

監督として思い出深い話とかは？

秋山「どの話も全部、大事ですし、非常にみんなも良くがんばってくれたし、好きなんですよねやっぱし。嫌いな作品なんてないですから。その中で、ある程度。自分達、自分自身が、もう一つ何かが足りないな、と思いながら作っていっているときに、今回のTV版「大運動会」のテイストみたいなものを、自分の中に植え付けられたのは、6話かなと。あれで確実に自分の中で向かっていけるみたいなものが、掴めたかなって気はしますね。それは、助監督の小林君の功績が大きかったですね。ここで何かがはまってくると、この先更にいけるんじゃないかな、それは多分キャラクター性だったと思うんですけど。そこは6話でかなり確立された。確立されたっていうか、6話が、多分原点だと思うんですよね。まず大学衛星にいくという漠然とした目的に、解答のようなものを提示したあの話が、出発点のような気がしますから。」

倉田「私は、1話の冒頭で、でかいローラーを引いて、地響き立ててみんなでこっちに走ってくるあのシーン。あー、始まったーという感じがなんか（笑）。でもほんとに作画的にもがんばってくれたんで、ものすごくいい絵に仕上がってましたから。あー良かったなと（笑）。」

秋山「その両方のテイストが大運動会の魅力だったから。ただただ熱血でシリアスなドラマばっかりだと。やっぱりどっかそうじゃないんだっていう、アニメーションは楽しいんだというものを、アニメじゃなきゃ表現できない部分というのが、1・2・3話とかで、表現できましたし、4・5・6・7・8話の大運動会のテーマ性を持った部分というのが上手い具合に最後までなんとかシンクロして、いけたつもりなんですけれど（笑）。」

あと見てて凄く思うのは、キャラクターが個々にすごく立ってますよね。あの辺のキャラクターを演出する部分で、監督が気を使った部分というのはどういった所でしょうか？

秋山「大運動会は、まずゲームがあって、OVA版があって、その次のホップ・ステップ・ジャンプ的なところで、テレビの企画があったんですよ。倉田君とはその辺の展開についてとか、キャラクターたちをTVでは、どう描いていこうとかいう部分をいろりいろ話をしていったんですよ。そうして上がったシナリオを読んで、これだったらこのキャラはここまで持ってったらもっと跳ねるんじゃないかなっていう部分があったんですよね。それは助監督の小林君と一緒に話して、もっとこっち側の方向に話を持ってたら、この企画は、大運動会はもっと成功するんじゃないかなっていう。そのシナリオの面白さの解釈を演出時には非常に良くできたと思うんですよ。それは各話数の担当演出の人、コンテ描いてくれた人含めて、我々の意図することを、非常に良く分かってくれたのかなと。統一性を超えたもっと飛躍した部分、それはシナリオがいい意味で解釈されたかなって言う風に思います。」

その辺は倉田さん、いかがですか？

倉田「その辺はまあ難しい問題ですが（笑）。自分の中でわりと固定観念みたいなものがあったので、その辺りを変えられるとなんか、それが時には腹立たしくもあり、時にはあーしまったと、何で俺がこれを思いつかなかったんだろうかと（笑）。私は他人の成功を許せないタイプの人間なもので（笑）。由美香が夕日を見て「私っていい女ー！」って叫ぶというシーンが、シナリオにはなくて本編にはあったんです。あれは監督でしたよね、あれをどうして俺が書けなかったんだろうと（笑）。」

秋山「由美香というキャラクター、お医者さんというか保健医というか。なんか自分には、倉田君と違った固定観念があって、お医者さんというのは、もっとキャリアウーマンでどうのとか。結婚しないけどどっか自分に対してのプライドがあって、自己陶酔的な面があるんじゃないかと。それに由美香はちょっと艶っぽかったんですよね、キャラクター仕立てが、そうすると「いい女」っていう台詞が一番ぴったるくるかなと。」

倉田「そういう意味では、お互いに刺激にはなったと思いますよ、やっぱり。あとゲームとかでも描いてきたところを、ちょっとずつ拡大解釈した面とかもあったんですが、そこがあのうまくいったかなと。ちょっと地味目だったキャラクターも、妙に味のある奴になってしまったりとか。ラーリとか、OVAやってた頃はすごく扱いが難しくて悩んでいたんですが、ここまでお笑いになるとは思いませんでした。いやもう、心を開いてからは毎週のようにギャグをやっているんで。あれで良かったのだろうかなと思いましたが（笑）。」

秋山「ラーリは、好きですよ。ラーリとミランダの関係は非常にいい感じになってるなーと。24話の冒頭で、シナリオを読んでいて、大いに笑わせたのが、ニンジンよけるくだり（笑）。倉田君の描いたあの部分っていうのが、さっき言ったような、キャラクターを膨らませる部分・要素なんですね。このキャラはこうで、こうなんですよって企画書に書かれてても、非常に画一的だし、表現としてあまり伝わってこない、何気なく書かれた、どうでもいいようなセリフに、そのキャラクター性みたいなものが表現されていると、演出陣にとっては、ものすごくイメージが膨らむものになってくるんですね。」

倉田「なるほど、良く分かりました。」

テレビは一応これで、完結してしまったわけなんですけど、今後の展開的なものが気がかりではあると思うんですが、もし、続編をやれるとするとどんな方向をやってみたいですか？

秋山「もう、倉田先生しだいじゃないですか（笑）。」

倉田「続きはないです（笑）。あかりメインの話は多分ないですね。やるんだったら、主人公を変えてとか、スター・ウォーズじゃないですけど、御堂巴の話に戻るとか、あるいは全然出てこなかった男子校ですね。パイオニアさんがどう言うかですが（笑）。でも男子校を舞台にというのはちょっと面白いかなと（笑）。」

倉田さんとしては神崎あかりとしての物語は書ききったかなと？

倉田「この後小説版があるんですけどね（笑）。」

じゃあまだ書ききってないじゃないですか（笑）

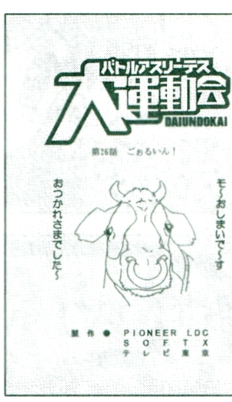
倉田「そうなんですよ。だから小説の方では荒技を使っておりますが。まあ買って読んでねと。俺の印税の為に（笑）。でもけりはついたかなという気はします。」

では最後に、最終回を見てくれる子にメッセージを

秋山「非常に大運動会って自分ではシンプルに捉えてたんですね。最近は描かれてなかったんですけども、"汗"。それって自分自身の中に忘れてたものなんですよね。汗をかく快感というものを忘れてる。でも大運動会のテーマには絶対あってなかったと思うんです（笑）。その汗には涙の汗もあるし喜びの汗もあるし色んな汗がある。そこに企画書に書かれてる衝突と成長、そして何かを見る光みたいなものをテーマにして、これならいけるんじゃないかなというものでいったんですけど。だからそれを見てくださった方が、何かをそこで自分と会話をできればいいなと思いますね。」

倉田「私は監督と違ってひたすらものを考えない人間なんでですね、本当にその場しのぎで作っていくんでテーマというものは、とうとう気がつかなかったんですけど。なんかこんな忙しい時代にですね、TVアニメを一生懸命見てくれた人は大変だったと思いますが、どうも有り難うございます。時々見返して笑ってやってくれればこれに勝る喜びはありません。立派な娯楽作品になったと思いますんで。と、いうところでしょうか。あ、でもLDかビデオも買ってな（笑）。」

（取材／鈴木）



OVAの方もいよいよクライマックスが近づいてまいりました。

OVA「大運動会 MISSON5」無事にアフレコが終了！



個々の競技のディテールを細かく描写するOVA版ならではの楽しさもありますが、演じた声優さんたちが今回のストーリー展開をどう思ったのか、さっそくご紹介していきましょう。

ミランダ・アーカー・ヴァルター役／岡村明美さん

「本日は、あかりに負けてとても悔しいです（笑）。それで、今日はですね、前に比べてあまりイジワルはひじ鉄ぐらいで、あとは、あまりしてないんですよね（笑）。正統派で、本日は、競技に向かったのですが、ラーリと戦うことなくあかりに負けてしまったことがとても悔しく、次の回ではしっかりとこの落とし前をつけさせていただこうと思っております（笑）。」

神崎あかり役／夏樹リオさん

「本日の見所は、ミランダさんとクリスとラーリさん。でもね、テレビの方は、友情とか、人間関係がメインなんですけど、OVAの方では運動競技のディテールがすごくカッコよく描かれています。絵を見ていると「わー、すごいな」とか思って感心しちゃってます。結構、アクションシーンが多いので、そこを注意して聞いて頂くと、「ふっ！」とか「んっ！」とか、ジャンプする時の声とか、走る時の声とか、みんなそれぞれ違うから、どれが、あかりらしいかなとか、ラーリらしいかなとか、クリスらしいかなとかね、その辺を注意して聞いて頂けると嬉しいです。あと、ターニャのお兄ちゃん！ですが、阪口あやさんは、反町クンみたいな、お兄ちゃんを期待していたそうなんですが、どちらかというと反町クンというよりは可愛い系でしたね（笑）。個人的には、ターニャのお兄さんの顔が見れてよかったなと。」

クリス・クリストファ役／川上とも子さん

「今日の見所は、OVAシリーズの方では、クリスとラーリにも友情が芽生えているようなところが、私はとても気に入っています。普通だったら、宇宙撫子という、輝かしい人に、冷静に普通に接しられるクリスっていうのがすごく好きだし、また、そういう事を気負わないで、自分の思った人とは会話のできるラーリが素敵だなあってすごく思いました。それと、競技的には、もうまるで自殺しそうな、殆ど、飛び降りてるんだけど、その飛び降りる速さに足を合わせて走っていってジャンプして飛ぶっていう、あんな競技をよく考えついたなーと、ビックリしています（笑）。」

ターニャ役／阪口あやさん

今日の感想は何といっても、「ぐぐ、ぐやじー」って感じ（笑）。TVでは、長々と勝負して、激しい勝負の後にターニャは負けたんだけど、OVAでは、あっさりなんか、知らないうちに負けていて（笑）、なんとがっかりしてしまいました。あれ、もう出てるんだっけ？　あ、大運動会には出てるんだけど、決勝に行けなかった。だから決勝に行けなくてすごい残念でした。ごめんなさい間違えてました（笑）。っていうことで、すごいぐやぢーって感じなんですけど。で、見所はなんといっても、ターニャの恋人とも噂されている、お兄さんが出てきたという感じで、皆さんはどのような方を想像されてたかわかりませんけれども、結構カワイイ系のお兄ちゃんが出てきたんでその辺をチェックしてください。運動会ではちなみにたま入れが得意で、球技が結構好きなのに、なのに！　ターニャはたま入れで脱落してしまったという（笑）、まだ悔しさがググッと込み上げてきます。」

ラーリ役／山口由里子さん

「ラーリはいつもの正統派というか、TVシリーズよりはとってもクールさを守ってるんですけど、今日ずっと思っていたのが、すごく強かったミランダちゃんが、負けてしまって（笑）。なんか負けたまま終わっちゃって、怒りで変貌していくところがなんか可哀相だなってのが、ずっとやりながら思ってたんです。今度、ミランダは邪魔するしかないかなと（笑）。どういう形で出てくるのかなって感じで、個人的に期待しています。後は、クリスの母が今回、出てくるのですが、私がやりました（笑）。「はっ」と「クリス……」って言ってますので、聞き逃さないでください（笑）。」

（取材／鈴木）

異次元の世界エルハザード TVシリーズ最終回収録終了！

やはり、長いようで短かった、TVシリーズ。全12話の収録を終えた声優さんたちにその感想をお聞きしました。

水原 誠役／岩永哲哉さん

「誠が、新たな他の世界に行って、そこでまた新しいキャラクターと会いながら、もう一つ神の目が出てきて、それを解明するっていう、一つの独立したエピソードで、いつものロシュタリアの世界とはひと味違っていて、楽しめました。新しく登場したキャラクターの皆さんの個性がすごく強かったのが印象的でしたね。」

藤沢ミーズ役／島津冴子さん

「あっという間に終わってしまってちょっと寂しいですけど、楽しかったです。また続編をよろしくお願いします。」

アフラ・マーン役／吉田美保さん

「空中農場にしばらく飛ばされていたので、間の話がよく分からないんですけど、アフラもよく分からない状態でやってたと思いますので、ちょうどよかったと思います（笑）。」

藤沢真理役／石井康嗣さん

「最終回でやっと亭主らしくなれたかなって気がしますんで、良かったなと（笑）。」

クアウール・タウラス役 坂本真綾さん

「あっという間のシリーズで、いろいろ大変だったんですけど、新しいことがいっぱいできて楽しかったです。」

ファトラ役／柊美冬さん

「今回、初めてファトラはTVシリーズに出させていただきました。なんとか、コンスタントにファトラと一緒にいられることができたのが嬉しかったですね。」

ギルダ役／玉川紗己子さん

「今回新登場のギルダです。最後に、誤解が解けて、ギルダとしては、大変良かったなと思っています。」

陣内菜々美役／夏樹リオさん

「ものすごく登場人物が多いのと、世界がいっぱいあるので、12話でどーやって終わるんだろうとか思ってたら、見事大団円にまとまって安心しました。ちょっと菜々美はセンチメンタルなシーンが多かったので難しかったです。でも、ちょっと今までにない菜々美が演じられたのでそれは、それでちょっと嬉しかったです。」

ウーラ役／阪口あやさん

「ウーラはいつもみたいに、誠の盾となって守るようなシーンがあんまりなくて、なんか食堂の招き猫をしただけで終わってしまった感じなんで（笑）。絵柄的にはインパクトあったんですけどね。かわいかったんだけど。ま、ウーラの招き猫が今回のポイントかなと思ってます（笑）。」

陣内克彦役／置鮎龍太郎さん

「けっこう、いつもですとギャグパート担当になってしまいまして、具体的な野望達成にはいつも近づけないんですけど（笑）。ディーバとの子作りの話が出たりとか、そういうところの、オマケの方にところどころ美味しいネタを残しておいてとくれているし、作品もまだまだ続けられそうな感じで終わっているので、次を期待しております。」

パルナス役／石川寛美さん

「なんかあっという間に終わってしまって、残念に思ってます。双子のお姉ちゃんがいる役だったんで、小桜さんと二人で楽しませて頂きました。またいつか一緒にやりたいと思ってます。」

ダル・ナルシス役／子安武人さん

「今回のエルハザードのお話の中心部にいるような役柄だったですね。それと、ちょっと純愛ぽい、恋愛的な要素も入っていてぐらいに、相手の気持ちを思ってるような、相手の為だったらそれに向かって行動することが、幸せって考えるような形の恋愛観を感じさせるようなお話だったので、すごく好感が持てましたね。キャラクター的にも、男としてなかなかカッコイイヤツだったなと僕は思いました。ダルはとっても男らしい、いい男でした。」

（取材／鈴木）

発行　株式会社ミーツ内
PAC事務所
〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-21-101
TEL.03-3796-7375
E-mail（インターネットID）：pac_mate@highway.or.jp
●発行日／平成10年3月15日（Vol.54）
●発行人／真木太郎
●編集人／森尻和明　井出美恵　井原キヨシ
●STAFF／岸田雅惠　鈴木誠二
河合明彦
●印　刷／ミズノプリテック株式会社
●協　力／AIC
金子亜規子（コミックドラゴン）
波多野貴康（電撃コミック ガオ！）